



## 私の好きなヴァイオリン曲集 5

### シベリウス

ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品4

- |   |                      |       |
|---|----------------------|-------|
| 1 | I allegro moderato   | 15:55 |
| 2 | II - Adagio di molto | 8:26  |
| 3 | III - Allegro ma non | 7:15  |

アンネ=ゾフィー・ムター (Vn) アンドレ・プレヴィン指揮 ドレスデン国立管弦楽 1995 年

### シベリウス

- |   |              |      |
|---|--------------|------|
| 4 | 夜想曲 作品51 第3番 | 3:09 |
|---|--------------|------|

サラ・チャン(Vn) チャールズ・アブラモヴィッツ(P) 1996 年

### ブラームス

ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品 77 から第一楽章

- |   |                        |       |
|---|------------------------|-------|
| 5 | I - Allegro non troppo | 22:29 |
|---|------------------------|-------|

ダヴィッド・オイストラフ(Vn) ジョージ・セル指揮 クリーブランド管弦楽団 1969 年

## AAFC 例会資料

福田郁子

2023. 1. 29

### 1. 2. 3. シベリウス ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品 47 (1905)

ジャン・シベリウス (1865 - 1957) によりヴァイオリンと管弦楽のための協奏曲として 1903 年に作曲されましたが、その後、シベリウスはブラームスのヴァイオリン協奏曲に刺激を受け、この曲の名演技性を抑えて構成を凝縮し、より交響的な響きを追求したオーケストレーションへと改定しました(1905)が、そのことにより、この曲は、交響曲を思わせる重厚な響き、緊密な構成など、いかにもシベリウスらしい独創性に富み古今のヴァイオリン協奏曲の中でも屈指のスケール感をもつ協奏曲となりました。

\*シベリウスはフィンランドのヘルシンキに生まれた20 世紀を代表する大作曲家の一人ですが、同国が帝政ロシアからの独立を勝ち得ようともがく最中にも、フィンランド民族に根ざした数多くの愛国的作品を作曲する等、音楽を通じて国民意識の形成に寄与し、それが、後の独立に役立ったことから国民的英雄と称えられています。

この曲も彼が 40 歳の頃の作で、彼特有のスケールの大きな 北欧の大地を思わせる幽玄で、幻想的な作品ですが、多くの名盤がある中で、私が特にムターの演奏が好きな理由は、最初に彼女の演奏を聴いて、衝撃的な印象を受けて以来、雪というと、どこまでも真っ白な、粉雪舞う雪原の中に一人たたずみ、どんな寒さにも、どんなに吹き荒れる吹雪にも微動だにせず、長い髪をなびかせて、ただ一心に、バイオリンを弾き続けている美しい女性の姿が浮かんで離れなくなりました。

そのしなやかな細い体に秘められた、強靱なエネルギーに目を見はるようなものを感じていたわけですが、かなり後になって、彼女が音楽的にも人道的にも跳び抜けて凄い人であることを知り、最初に彼女の演奏を聴いて、あそこ迄感動した理由が分かったような気がしました。

ヴァイオリン奏者 アンネ＝ゾフィー・ムタ(1963 年～)ドイツの南バーデン地方に生まれ、5 歳でピアノを始めて間もなくヴァイオリンに変更しましたが、彼女の並外れた才能は幼いころから際立ち、13 歳になった時、ルツェルン音楽祭でその才能をカラヤンに見抜かれ、招かれて以来、今日に至るまで、数々の曲をベルリン・フィル、その他の著名な楽団、指揮者と共演してきました。

\*彼女の演奏の、その多彩な音色、完璧な技巧、卓越した表現力、豊かな音楽性により、現代最高のヴァイオリニストの一人として世界的に認められ、世界最高峰の音楽賞であるグラミー賞を 4 度も受賞し、世界各国で、クラシック界では異例の販売枚数1000万枚以上の CD を売り上げましたが、その長年にわたり世界的に知られてきた立場を生かして、慈善活動を活発に行い、医療や貧困の問題解決に取り組む多くの団体の支援、ヨーロッパ各地の才能ある若い弦楽器奏者の育成のための基金の立ち上げ等々、その活動は世界に広がり 2008 年にはアンネ＝ゾフィー・ムター財団が設立されました。  
\*家庭では3児の母であり、若手アーティストの育成にも情熱を注ぐ彼女は、当に「美しき音楽の母」の存在です。

\*又、彼女は日本文化が大好きで、自宅の庭に桜や盆栽を植えて日本庭園を作り、あずま屋を建て、日本人の茶道家を招いてお茶会を開くなど、京都の美しさを楽しんでいます。

### 4. シベリウス 夜想曲 作品51 第3番 ベルシャザール王の饗宴(1906)

1906 年、プロコーペの劇の為に作曲された付随音楽から編まれた全 4 曲からなる演奏会用組曲で、透明で澄んだ感触がことさら美しいことで知られています。

ヴァイオリン奏者サラ・チャン:(1980～)は、フィラデルフィア生まれの韓国人、6 歳でジュリアード音楽院の入学試験に合格し、8 歳でズービンメーター指揮ニューヨーク・フィルとの共演で華々しいデビュー以来、

世界の名だたるオーケストラ、指揮者、ピアニストらと共演、第一線で活躍を続けている最高水準のヴァイオリニストです。この演奏も彼女が16歳の時のものです

\*「チャンの才能はあまりにも途方もなく、この才能を生み出した自然の神秘に只恐れ驚くしかない」(N.Y.T)

## 5 ブラームス ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品 77 から 第一楽章

ドイツの大作作曲家、ヨハネス・ブラームス(1833～1897)による唯一つのヴァイオリン協奏曲(1878)ですが、全体を貫くスケールの大きさと、構築的な楽曲構成で、ドイツロマン派を代表するヴァイオリン協奏曲と称されると共に、古今の3大ヴァイオリン協奏曲の一つに数えられる名曲中の名曲です。

\*ブラームスはサラサーテの演奏に触発されてこの曲を書きましたが、途中、ヨハヒム本人から多くの大切な助言を得ており、この作品を際立たせている完成度の高さと、そのオーラは、「豊かな想像力と才能に恵まれた2人の作曲家と演奏家が、互いに深い敬意と愛情を抱きつつ、素晴らしい音楽の明確なイメージを求めて全力を投入し、意見を闘わせた結果の産物であろう」とも言われています。

\*「この曲が、かなり難しいヴァイオリンの演奏技巧に満ちていながら、渋く地味な音楽になっているのは、ブラームスが理想としていた古典的で純粋な音楽表現と、彼の壮麗な美質や落ち着いた情緒とが相まって、高度な内面的表現になっているのである」との解説者(柴田龍一)の評には共感を覚えます。

ヴァイオリン奏者のダビッド・オイストラフ(1908-1974) は、ロシア帝国のオデッサ(現:ウクライナ)出身のユダヤ系ヴァイオリニストで、1926年オデッサ音楽演劇学院を卒業と同時に演奏活動を始め、全ソビエトコンクールで2回優勝、ヴィエニャフスキーヴァイオリン・コンクールで第2位、1937年イザイ・コンクールで優勝しましたが、その間、彼の活動とはその情報も含めて、新しい国家である「ソビエト社会主義共和国連邦」の中に封印されていました。

\*しかし第二次大戦後になってようやく、その名が国際的に知られるようになり、「ソ連の幻の大ヴァイオリニスト」として注目を集めたことから、オイストラフは、世界各国での演奏旅行を開始し、その強靱なテクニックと厚みのある音色、スケールの大きな音楽性、人間味にあふれる温かい表現により、旧ソビエトが生んだ今世紀を代表する大ヴァイオリニストの一人としての名声を定着させるに至りました。

彼は1974年、演奏旅行中にアムステルダムのホテルで急逝するまで、現役のヴァイオリニスト兼指揮者(モスクワフィル)として精力的な演奏活動を展開していました。彼の来日回数は4回にも上ります。

\*「…オイストラフは当に感受性そのもので、作品の魂の奥深くに入り込んでいくのだ」タイムズ紙

\*彼の解釈は偉大さと穏やかさを兼ね備え、その解釈は音楽から生まれ オーケストラ、そして聴衆に迄インスピレーションを与える。」指揮者、マリーナ氏